

シリーズ「声 議論, 正論, 極論, 批判, 対話...の物語」第1弾

新国立劇場 『アンチポデス』

日本初演！ピューリッツァー賞受賞作家アニー・ベイカーによる
「だれかが“おはなしをする”お話を描いた物語」を、
芸術監督の小川絵梨子が演出。



議論, 正論, 極論, 批判, 対話...の物語 Vol. 1 2022年4月8日(金) - 4月24日(日)

アンチポデス

THE ANTIPODES
Written by Annie Baker



白井 晃



高田聖子



斉藤直樹



伊達 暁



富岡晃一郎



亀田佳明



草薙智文



八頭司悠友



加藤梨里香



演出・芸術監督
小川絵梨子

3月13日(日) 10:00～ 一般発売 新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999

写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ

新国立劇場 制作部演劇 広報担当 関

TEL: 03-5352-5738 FAX: 03-5352-5737

〒151-0071 東京都渋谷区本町1-1-1

 **新国立劇場**
NEW NATIONAL THEATRE TOKYO

作品について

小川絵梨子芸術監督 4 年目のシリーズ企画は「声 議論, 正論, 極論, 批判, 対話...の物語」。対面を避け言葉だけのコミュニケーションとそのツールを手に入れた現代人が、一方的に投げつける、あるいは、投げつけられる言葉の多くは、時に正論のようでただの批判になっていないだろうか、極論をぶつけるだけで議論として成立さえしていないのではないか。時として、相手を傷つけることが目的になっていないか。直接耳に届く声と、内なる声に耳を傾け、そこから始まる議論や対話を描く作品が並びます。

第一弾は、『フリック』でピュリッツァー賞を受賞したアニー・ベイカーが 2017 年に発表した『アンチポデス』。新国立劇場では『タージマハルの衛兵』の翻訳の記憶も新しい、小田島創志による翻訳で日本初演いたします。「地球の裏側」を意味するタイトルを冠した戯曲に登場するのは、閉ざされた部屋で物語を作り出す、という作業をしている 8 人の男女。人に渡す言葉の在り方を、他者との関係性を、今一度、立ち止まって考えたい、というテーマのもとにお届けする「だれかが"おはなしをする"お話、を描いた物語」。様々な危機に陥った世界にとって「ものがたり」がどのような価値を持つのか、観客と一緒に考えたいと、小川絵梨子自らが演出をいたします。

あらすじ

ある会議室に男女 8 人が集められている。

そこがどこであるのか、いつであるのかも不明だが、リーダーであるサンディのもと、彼らは企画会議として「物語を考える」ためのブレインストーミングを始める。新たなヒット作を生むためである。

サンディは「ドワーフやエルフやトロールは無し」と言う。恐ろしさや怖さの中にも消費者が親近感を覚えるリアルな物語を採用したい、と。

既存の作品の焼き増しではない新しい物語を生み出すために、参加者たちは競うようにして自分の「リアル」な物語を披露していく。やがて会議室の外に世界の終末のような嵐が訪れる。

翻訳 小田島創志からのメッセージ

「物語」の物語ーアニー・ベイカーの『The Antipodes』を一言で表すとそうなるかもしれない。ただしそれは、ただの空想ということでは決してない。物語が生まれる背景には現実が、社会的な事件、個人的な事件、あるいは何気ない日常が存在する。では、物語は現実とどうかかわるのか？物語がこの現実世界において果たす役割はー？

こうした問いを突き詰めていくと、改めて気づかされる。物語も現実も、語られていない要素が表面下に無限に潜んでいるのだ。『The Antipodes』という作品自体、曖昧な部分は数多い。彼らは何のために、唯一無二の物語を作ろうとしているのか。彼らが話す体験談は、どこまで真実で、何を表しているのか。そもそもなぜ、「彼ら」が選ばれたのか。舞台の外で何が起きているのか。語られず、曖昧なままほのかに浮かび上がってくる、物語の背後にあるもの、言葉の背後にあるもの、現実の背後にあるものの存在。日本で上演される「物語」としての『The Antipodes』が、今を取り巻く現実の何を照射するのか、翻訳者としても考え続けたいと思っている。

演出 小川絵梨子からのメッセージ

『アンチポデス』は不思議な話です。ある会議室に8人の人間が集まり、物語を生み出すために話し合いをしています。それが何のためなのかは語られません。新しいテレビドラマの脚本なのか、映画なのかそれとも全く別の何かなのか、観客には明かされないまま8人の話し合いが続いていきます。8人は締め切りとプレッシャーに格闘しつつ、なんとかして「まだ誰も聞いたことのないような新しい物語」を作り上げようと必死で頭を捻ります。しかしやがて、チームであるはずの8人は閉ざされた空間の中で、お互いへの苛立ちや不安を募らせていき、みんなで作っているはずの物語も迷走を始めていきます。

本作はシリーズ「声 議論, 正論, 極論, 批判, 対話...の物語」第一弾の作品となります。人と人のコミュニケーション、人が集団として存在する時の難しさ、痛み、孤独などをヒリヒリと生々しく描いていければと思っています。

スタッフプロフィール

作：アニー・ベイカー (Annie BAKER)

劇作家。1981年アメリカ、マサチューセッツ州出身。ニューヨーク大学卒業後、2009年にニューヨーク市立大学ブルックリン校にてMFAを取得。これまでの主な戯曲に『Body Awareness』『Circle Mirror Transformation』『The Aliens』『John』などがある。『Circle Mirror Transformation』と『The Aliens』でオビー賞受賞。12年に脚色を手掛けた『ワーニャ伯父さん』では衣裳デザインも行った。作品はこれまでに米国内150以上の劇場および世界各地で上演されている。17年にマッカーサーフェローシップ受賞。現在はテキサス大学オースティン校にて教鞭を執る。

14年にオビー賞およびピューリッツァー賞を受賞した『フリック』は新国立劇場で16年に上演されている。

翻訳：小田島創志 (ODASHIMA Soshi)

1991年、東京生まれ。お茶の水女子大学、東京藝術大学、明治薬科大学非常勤講師。専門はハロルド・ピンター、トム・ストッパード、デイヴィッド・ヘアを中心とした現代イギリス演劇研究。また、英語圏における小説のアダプテーション（翻案）について、研究成果を日本英文学会などで発表。戯曲翻訳としては『受取人不明 ADDRESS UNKNOWN』、『リベリアン・ガール』、『ウエストブリッジ』、『ポルノグラフィ』、『BIRTHDAY』など。新国立劇場では『タージマハルの衛兵』が上演されている。また共著に『ジョージ・オーウェル『一九八四年』を読むーディストピアからポスト・トゥルースまで』（秦邦生編、水声社）。

演出：小川絵梨子 (OGAWA Eriko)

2004年、ニューヨーク・アクターズスタジオ大学院演出部卒業。06～07年、平成17年度文化庁新進芸術家海外研修制度研修生。18年9月より新国立劇場の演劇芸術監督に就任。

近年の演出作品に、『ダウト～疑いについての寓話』『検察側の証人』『ほんとうのハウンド警部』『作者を探す六人の登場人物』『じゃり』『ART』『死と乙女』『WILD』『熱帯樹』『出口なし』『マクガワン・トリロジー』『FUN HOME』『The Beauty Queen of Leenane』『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』『CRIMES OF THE HEART 一心の罪』『死の舞踏／令嬢ジュリー』『ユビュ王』『夜想曲集』『RED』『スポケーンの左手』など。

新国立劇場では『キネマの天地』『タージマハルの衛兵』『骨と十字架』『スカイライト』『1984』『マリアの首ー幻に長崎を想う曲ー』『星ノ数ホド』『OPUS/作品』の演出のほか、『かもめ』『ウインズロウ・ボーイ』の翻訳も手がける。

出演者プロフィール

白井 晃 (SHIRAI Akira)

2002年まで「遊●機械/全自動シアター」主宰。現在は俳優として舞台、映像で活躍すると同時に、演出家としてストレートプレイからミュージカル、オペラまで数多くの作品を手掛けている。第9・10回読売演劇大賞優秀演出家賞、第13回湯浅芳子賞（脚本部門）、第10回佐川吉男音楽賞、第11回小田島雄志・翻訳戯曲賞などの受賞歴がある。2014年4月～2016年3月KAAT 神奈川芸術劇場のアーティストック・スーパーバイザー（芸術参与）、2016年4月～2021年3月同劇場の芸術監督を務めた。2022年4月1日より世田谷パブリックシアター芸術監督就任予定。

【主な舞台】出演作として『出口なし』『三文オペラ』『趣味の部屋』『Lost Memory Theatre』『マクベス』『兵士の物語』『オセロ』など。新国立劇場では、『テンペスト』『天守物語』『混じりあうこと、消えること』『うら騒ぎ／ノイゼズ・オフ』を演出。

高田聖子 (TAKADA Shoko)

1987年『阿修羅城の瞳』より劇団☆新感線に参加。95年に自身が立ち上げたプロデュースユニット「月影十番勝負」続く「月影番外地」では、様々な演劇人とコラボレートするなど新たな挑戦を続けている。第51回紀伊國屋演劇賞個人賞受賞。

【主な舞台】『狐晴明九尾狩』『ベイジルタウンの女神』『ざ・びぎにんぐ・おぶ・らぶ』『あれよとサニーは死んだのさ』『けむりの軍団』『メタルマクベス disc2』『森から来たカーニバル』『江戸は燃えているか』など。新国立劇場では『夢の裂け目』『舞台は夢～イリュージョン・コミック～』に出演。

斉藤直樹 (SAITOH Naoki)

安室奈美恵、TRFなどのバックダンサーを経て、舞台を中心に活動中。

【主な舞台】『検察側の証人』『FORTUNE』『WILD』『くろねちゃんとベージュねちゃん』『ヘッダ・カーブレル』『アドルフに告ぐ』『ユビュ王』『テンペスト』『6週間のダンスレッスン』など。

新国立劇場では『こつこつプロジェクト「スペインの戯曲」』『マリアの首－幻に長崎を想う曲－』『サロメ』に出演。

伊達 暁 (DATE Satoru)

1996年、演劇プロデュースユニット「阿佐ヶ谷スパイダース」の旗揚げに参加。以降中心メンバーとして活躍。劇団公演以外にも多数の舞台に客演するほか、近年はTVドラマ、映画、CMナレーションなど、映像にも活動の場を広げている。

【主な舞台】『老いと建築』『両国花錦闘士』『銀河鉄道の夜 2020』『人間合格』『桜姫～燃焦旋律隊殺於焼跡』『セールスマンの死』『髑髏城の七人～season 月<下弦の月>』『三億円事件』『蛙昇天』など。新国立劇場では『斬られの仙太』『骨と十字架』に出演。

富岡晃一郎 (TOMIOKA Koichiro)

「ベッド&メイキングス」主宰。「阿佐ヶ谷スパイダース」のメンバーとしても活動。2021年「無風ズ」旗揚げ。近年は早乙女太一率いる大衆演劇「劇団朱雀」への出演や、コンテンポラリーダンスカンパニー「baobab」にダンサーとして出演するなど、活躍の場を拡げている。

【主な舞台】『老いと建築』『フォーティンブラス』『アンバランス』『母 MATKA』『「笑っせえるすまん」 THE STAGE』『墓場なき死者』『猿女のリレー』など。

亀田佳明(KAMEDA Yoshiaki)

文学座所属。劇団公演『モンテクリスト伯』にて初舞台以降、舞台を中心に活動。近年では劇団外作品にも積極的に参加し、また映画、吹き替え、ラジオドラマなど活躍の場を広げている。『タージマハルの衛兵』『ガラスの動物園』にて第54回紀伊國屋演劇賞・個人賞受賞。

【主な舞台】『ダウト～疑いについての寓話』『BIRTH DAY』『森フォレ』『一銭陶貨～七億分の一の奇跡～』『ピサロ』『イザ ぼくの運命のひと/PICTURES OF YOUR TRUE LOVE』など。新国立劇場では『リチャード二世』『タージマハルの衛兵』『ヘンリー五世』『マリアの首-幻に長崎を想う曲-』『ヘンリー四世』『三文オペラ』『るつぼ』に出演。

草薙智文 (KUSANAGI Tomofumi)

新国立劇場演劇研修所を第9期生として修了。TEAM HANDY に所属し、ACTACTION やゼータクチクのメンバーとして活動している。

【主な舞台】『贅沢地区狂詩曲』『ツキシロノムコウ・零』『国粹主義者のための戦争寓話』『野田版歌舞伎・桜の森の満開の下』『俺節』『あらしのよるに』『GOEMON』『ワンス・アポン・ア・タイム in 京都III～錦小路の素浪人』など。新国立劇場では『オレスティア』『月・こうこう、風・そうそう』に出演。

八頭司悠友(YATOJI Yusuke)

俳優座養成所を経て、2020年まで劇団俳優座に在籍。『白いスケッチブック』で初舞台。これまでの主な出演にドラマ『悪党～加害者追跡調査～』『魔性の群像 刑事・森崎慎平 4』などがある。

【主な舞台】『少年Bが住む家』『雉はじめて鳴く』『血のように真っ赤な夕日』『桃太郎と三人の魔女』『はこぶね』『海の凹凸』『花粉熱』『リア王』『森は生きている』など。新国立劇場では、『反応工程』に出演。

加藤梨里香 (KATO Ririka)

幼少の頃から『赤毛のアン』や『葉っぱのフレディ～いのちの旅～』などのミュージカルに出演。2012年、ソニー・ミュージックアーティスト主催の女優発掘オーディション『アクトレース』の優秀者に選抜され、『劇団ハーベスト』のメンバーとなる。以降、ミュージカルを中心に、ストレートプレイ、映像と幅広く活躍中。

【主な舞台】『リトルプリンス』『レ・ミゼラブル』『両国花錦闘士』『サンセット大通り』『怪人と探偵』、音楽劇『マニアック』など。

公演概要

【タイトル】 アンチポデス

【スタッフ】

作 アニー・ベイカー

翻訳 小田島創志

演出 小川絵梨子

美術 小倉奈穂

照明 松本大介

音響 加藤 温

衣裳 高木阿友子

ヘアメイク 高村マドカ

演出助手 渡邊千穂

舞台監督 福本伸生

芸術監督 小川絵梨子

主催 新国立劇場

【キャスト】

白井 晃 高田聖子 斉藤直樹 伊達 暁 富岡晃一郎

亀田佳明 草薙智文 八頭司悠友 加藤梨里香

【会場】 新国立劇場 小劇場 （京王新線 新宿駅より1駅、「初台駅」中央口直結）

【公演日程】 本公演 2022年4月8日（金）～24日（日）

プレビュー公演 2022年4月3日（日）、4日（月）

【料金（税込）】 本公演 A席7,700円 B席3,300円

プレビュー公演 A席5,500円 B席2,200円

【一般発売】 3月13日（日）10:00～

※通常の座席配置での販売を予定しております。

【通し券】 「シリーズ 声」演劇3作品通し券

4月『アンチポデス』 5月『ロビー・ヒーロー』 6月『貴婦人の来訪』

料金（税込）：20,700円（正価より10%OFF） 一般発売：3月13日（日）10:00～

詳細：https://www.nntt.jac.go.jp/play/news/detail/13_021415.html

【チケット申し込み・お問い合わせ】

新国立劇場ボックスオフィス TEL：03-5352-9999（10:00～18:00）

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

☆本公演は新型コロナウイルス感染予防、拡散防止対策をとって上演いたします。

詳細：https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html

☆本公演では、耳や目に障害のあるお客様への観劇サポートをご提供いたします。

* **Z席1,650円** Z席（各日10席）は、公演当日朝10:00から、新国立劇場Webボックスオフィスおよびセブン-イレブンの端末操作により全席先着販売いたします。※先着販売後、残席がある場合は、公演当日の開演2時間前からボックスオフィス窓口でも販売いたします。※電話予約不可。* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約不可。*新国立劇場では、高齢者割引（65歳以上5%）、障害者割引（20%）、学生割引（5%）、ジュニア割引（中学生以下20%）など各種の割引サービスをご用意しています。